



『教会はキリストの体、一人一人はその部分』

コリントの信徒への第一の手紙12章27節

日米合同教会は、特にニューヨーク市近郊に住む日本人並びに日本に関心を寄せる人々に、礼拝、交わり、学び、伝道・宣教の業を通してキリストの福音をのべ伝え、キリスト者として共に信仰を深めていくことを目的とする信仰共同体です。

◇牧師からのメッセージ

レントは何故大切なのでしょうか レント(四旬節)は、キリストの十字架の苦難をしのぶ期間で、教会暦の中でも大切なものとされています。具体的には灰の水曜日(今年は3月9日)からイースターまでの日曜日(今年は4月24日)を除いた40日間を言います。灰の水曜日の名称は、昔信仰の先達が、前年の棕櫚の日曜日に配られた棕櫚の枝を燃やした灰を頭にかぶって、レントの期間に入る決心をしたことから来ています。◆レントの焦点は主イエスの苦難にあります。主イエスの苦難は、神の摂理の器としてこの世の権力に真っ向から戦いを挑んだ結果です。ローマ帝国が象徴する力による平和を偽の平和と断言し、シーザーにすり寄って王位の安全を図るヘロデ王を狐と呼んだ(ルカ13:32)主イエスを権力側が放っておく筈はありません。神の御旨に完全に忠実である限り、十字架は避けられないものだったので。◆しかし、主イエスの苦難は、権力との対決だけが生んだものではありません。彼の苦難は、それ以上に、ユダによって売り渡され、ペテロによって裏切られ、弟子達すべてによって見捨てられたことに起因していたのです。主イエスが大祭司の手下に取り押さえられた時、彼に味方した人は誰もいなかったのです。この世の権力と弟子達の裏切りの結末、それが十字架です。◆レントは何故私たちにとって大切なのでしょうか。それは、もしその場にいたら、私たちもまた主イエスを裏切っていたに違いないからです。主イエスを「知らない」と言い、見捨て、ちりちりばらばらに逃げさっていたに違いないからです。そう、十字架上の主イエスの絶叫、「神よ、彼らをお赦してください。」は私たちのためのものなのです。だからこそ、レントは私たちにとって大切な期間なのです。◆以上のことを念頭に、次のようにレントの礼拝と学びを計画しています。是非ご参加ください。

灰の水曜日礼拝 日時:3月9日午後7時 場所:礼拝堂

レントの学び 日時:3月16日-4月13日(毎水曜日5回)

7時-8時半 場所:社交室 テーマ「十字架上の七つの言葉」

洗足木曜日礼拝 4月21日 午後7時 場所:礼拝堂

良い金曜日礼拝 4月22日 午後7時 場所:礼拝堂

◇日曜礼拝説教の要約◇

■1月30日「ローマの平和とイエスの平和」**マタイ福音書5章1節-12節** 「心の貧しい人は幸いです。悲しんでいる人は幸いです。柔和な人は幸いです。平和を実現する人は幸いです」。主イエスの時代のパレスチナは、ローマ帝国の皇帝シーザーとその傀儡でユダヤ人の王ヘロデによる二重の抑圧にさいなまれていました。ローマの平和は、民に対する武力による鎮圧以外の何ものでもなく、民衆を押さえつけることによって獲得した平和でした。それはいつかは崩壊する偽りの平和です。◆主イエスの平和は、それとは逆のものでした。それは、心の貧しい人—搾取されて身動きできなくなった人、経済的に困窮し、政治的な自由を奪われて心が萎えてしまった極貧の人々が幸いですとされる平和です。何故なら、主イエスが彼らと一緒に苦しみ、彼らの重荷を彼らに代って背負ってくださるからです。◆また、悲しんでいる人—暴力と抑圧と不公平が渦巻いている現実に身を置きながら、あきらめることなく、人間が人間としてあつかわれる世界を望み続ける人を意味します。彼らが幸いなのは、彼らの思いは神の思いと同じだからです。◆柔和な人—いじめられ、差別され、暴力の犠牲になりながら、自暴自棄に陥らない人、抑圧者に対する憎悪で心が一杯にならない人を指します。柔和な人は、多くの人が神などいないと言って信仰を捨てる現実の中で、神への信頼を持ち続ける強靱な信仰の持ち主だからです。◆最後に、平和を実現する人—シーザーやヘロデの世界に身を置きながら、愛と慈しみを人生の規範として持ち続ける人です。復讐心から解放されており、彼らが求めるものが人と人の和解と一致であり、それは主イエスが求めておられるものと同じだからです。それは、主イエスが大切にされた、誰もが分け隔てなく招かれた食事に象徴されています。◆そのような世界の形成に自分のできる範囲で貢献する、これが主イエスが私たちに望んでおられることです。これを実現する事はけっして容易なことではありません。しかし、この世界を本当に治めておられるのは主イエスが啓示された慈しみ深い神だと信じ、それを梃に毎日を出来得る限り人間らしく、正々堂々と生きる—これこそ主イエスがもたらした神の平和であるに違いありません。

■2月6日「あなたたちは地の塩、世の光」**マタイ福音書5章13-16節** 「あなたがたは地の塩、世の光である」。この、ひとつまみの塩と燭台に置かれたランプのイメージは、日米合同教会の存在意義とそれに連なる私たちの人生の目的を明らかにしてくれます。◆主イエスの回りに集まった群衆は、周囲の国々に征服され続けたイスラエルの精神的状況に飽き足らず、人生の意味や、国家の存在意義を模索していた良心派、真面目な人々だったのです。彼らは主イエスに、人生の意味は何か、何のために人間は生きているのかを問うために集まっていたのです。

日米合同教会月報68巻2011年3月号

ひとつまみの塩が食べ物をどんなにおいしくするかを良く知っていた人々にとって、主イエスの言葉の意味は明快でした。「あなたがたの人生の目的、それは、この世界を神の慈しみで味付けすること、これだ」。◆また、暗闇の中で、一条のランプの光がいかに彼らの生活を和ませるかを知っていました。「あなたがたの人生の目的、それは神の働きを人々に見えるようにすること、これだ」。「私はあなたがたを燭台の上に置く。そこで神の光を照り返しなさい。この疎外とエゴイズムが渦巻く中で、神の下における一致と和解の器となりなさい」。◆現世界も、当時と同じように無意味さと虚無感に覆われています。その世界を中原中也という詩人はこう言葉で表現しました。「時に自分をからかうように、僕は自分に訊いてみるのだ。それは女か？うまいものか？それは栄誉か？すると心は叫ぶのだ。あれでもない、これでもない。あれでもない、これでもない」。人生の目的は情欲の追求にあるのではなく、食欲の充足でもなく、この世の栄華、栄光でもないことはおぼろげながら分かる。しかしそれが何かは分からないという人々に、主イエスを指し示すことです。◆つまり、日米合同教会を相互補助の精神と慈しみに満ちた信仰共同体、他者の善を願い、そのために努力する人々の祈りと証の共同体とすること。2000年前と同じように、主イエスは今この礼拝堂に集っている私たちに、「あなたがたは地の塩、世の光。だから輝け！燭台の上で輝け！」と、語りかけておられます。

◇教会の建物修理◇

建物修復委員会報告 3月13日(日)午後1時15分より理事会・管財会合同で、今までの建物修理のために費やした工事費用、今後の工事予算計画、その財源について詳しく説明し検討するミーティングを教会で行なう予定です。ご興味がおありの方はどなたも参加出来ますので、ご出席下さい。

◇子供夏期キャンプのご案内◇

SMJ (Special Ministry to the Japanese)主催の「小中学生ディスカバリーキャンプ」が今年も7月10日から22日までシェルター島(ロングアイランド)のキャンプクニペットで行なわれます。キリストの愛を土台とするこのキャンプは今回で27回目、プログラムやカウンセラーとの交流を通じて子供たちがキリストの愛に触れる場所として大いに用いられており、NYの日系コミュニティの間でも知られて来ています。費用は子供1人1300ドル。詳しい情報を掲載したチラシが出来ましたので、お子様のおられるご家庭へお渡し下さい。◆2月20日にキャンプディレクターの吉松純先生が来られ、JAUCでもキャンプをサポートするためのグループを組織して大いに支援をして欲しい、3-4月から始まるキャンプ実行委員会の会合にも積極的に参加をお願いしたいとの呼びかけを受けました。このキャンプは元もとJAUCの夏期臨海学校とし

て始まったものですので、教会としても大いに協力したいです。現在、SMJでは(特に男性の)キャンプカウンセラーを募っています。奉仕者のための詳しいガイドラインが教会事務所にありますので、ご興味がおありの方は事務所までお問合せ下さい。また、献金も募っています。献金の宛名はSMJ「サマーキャンプ用」と明記下さい。

◇お知らせ◇

■**鈴木先生ご夫妻のイスラエル旅行** 鈴木先生ご夫妻が24日、聖地の旅を終えて無事NYに戻られました。下記に先生の旅行記を掲載します。◆**私たちの聖地旅行** 私たち夫婦は、2月に10日程聖地を旅しました。以下は私たちが訪れた幾つかの場所の報告とその印象です。最初に訪れたのはガリラヤ湖です。長さ13マイル、幅6マイルの大きな湖で、イエスの時代の人々が海と呼んだのもうなずけます。昔から魚がとれる湖として知られています。ご存知のように、イエスの弟子達の何人かはガリラヤの湖畔で魚をすなごる漁師でした。その水は青く、緑の草とオリーブの木に囲まれたおだやかな光景は、私たちの心をなごませてくれました。「野の百合を見なさい。(中略)栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾っていません」というイエスの言葉があらためて新鮮によみがえってきました。◆地中海に面したカイザリアの海の青さと砂の白さにびっくりし、強い太陽と巨大な石の建物に圧倒されました。ここはヘロデ大王が巨額な費用を使って造った別荘で知られています。彼はローマの皇帝シーザー・アウグストに媚を売るために、カイザリアに都市と造り、それを皇帝に捧げたのだそうです。自分の地位の安定を図るためには何でもしたヘロデのあさはかさの一端をかいま見た気持ちがしました。当時の科学知識の粋を集めて造られた別荘と都市の背後にある、労働にかり出された人々と奴隷達の血と汗と涙を忘れてはならないと思いました。◆イエス生誕の場所とされるベツレヘムにも行ってきました。そこには自然の美しさは全く見られませんでした。1948年以来、ユダヤ人から隔離されたパレスチナ人の住む場所として知られている土地です。イスラエル政府によって建てられた高い壁で囲まれたベツレヘムで見た住居は小さく、汚れが目立ち、歩いている人の衣服もそれまで見なれたイスラエルの人々のものとは違い、終戦直後の日本人の衣服を思い出させました。2000年前に搾取されていたユダヤ人に代って、現在はパレスチナ人が搾取の犠牲者となっている歴史の皮肉を目の当たりにしました。◆圧巻は何と言ってもマサダです。エルサレムからバスで3時間のところに高い山があり、その頂上を切り開いて造ったヘロデの宮殿が二つある場所です。山の麓からはケーブルカーで行きますが、中にはエリザベスのように45分かけて登る人もいます。急勾配で歩くだけでも大変です。宮殿を建てるために必要な巨大な岩や石盤をどうやって運んだのでしょうか。ヘロデは山の麓に雨水を貯める巨大な水

日米合同教会月報68巻2011年3月号

瓶を造り、そこから頂上の宮殿に運ばせたのです。労働にかり出された人々のあえぎ声が聞こえるようでした。人間を踏み台にして権力を誇示しててんとして恥じない権力者の残酷さは想像してあまりがあります。◆エルサレムでは、聖なる埋葬の教会 (Church of the Holy Sepulcher)を訪ねました。この教会はイエスが十字架にかかったゴルゴタの丘と埋葬されたとされる墓の上に建てられたものです。しかし、それらの場所は、大きな教会の建物で覆うのではなく、自然のままに残しておいてほしかったというのが正直な気持ちでした。◆とにかく、10日の聖地の旅は、私たちにとって思い出深いものとなりました。また機会を見て是非行ってみたいと思います。しかし、今はとりあえずエリザベスが撮った800枚近い写真の整理に追われなくてはなりません。

■**春の大掃除** 4月16日(土)に教会の大掃除が予定されています。皆様のお手伝いをどうぞよろしくお願いいたします。

■**リーダーシップの集い(4月)** 昨年に引き続き、今年も教会員による「教会リーダーシップ・リトリート」を行ないます。日時は4月1日(金)午後6時、また2日(土)午前9時半から午後3時半まで、コーディネーターは吉田ジェリ姉です。テーマは「JAUCに働いている神様の恵みについて互いに話し合うことで、教会の今後の将来について考えて行こう」です。どうぞご参加下さい。

■**婦人会からのお知らせ** 婦人会は3月からWorld Visionのチャイルド・スポンサーシッププログラムに参加することを決定しました。このプログラムは、毎月35ドルで貧しい発展途上国の子供1人の教育費・生活費を支援するもので、サポートを受けている子供の写真や手紙などが教会に届けられます。1ヶ月に総額35ドルがあれば子供1人を養育できますので、皆様もどうぞご協力下さい。お問合せはパウマン久美子姉または今戸ちづ子姉まで。寄せられる寄付の金額が増えれば今後サポートする子供たちの数を増やすことも考えてみたいと思います。

■**Day of Remembrance の集い** 日系人コミュニティによる恒例のDay of Remembranceの集いが今年もJAUCで4月9日(土)午後1時から5時まで持たれます。

■**愛修会** 10月8日-9日に愛修会が行なわれます。今回はストーニーポイントではなく、アップステートにある緑豊かなワーウィックリトリートセンターで開催されることになりました。今回もゲストスピーカーの方は招かず教会員でプログラムを作り、JAUCの使命、信仰のあり方について考える時を持つ予定です。参加者人数の確認のため、社交室にサインアップシートがありますので、参加をご希望の方はお名前をご記入下さい。

■**VIP集会** 2月のVIP集会は14日に開かれ、19日に帰国を控えたSMJ(Special Ministry to the Japanese)コーディネーターの相良昌彦先生がNY生活の思い出などを語って下さいました。相良先生は帰国後は東京の青山学院高等部に宗教主任として就任される予定です。NY・NJ地区の日本人信徒が集まって学びや証しの時を持つこの会は、毎月第2月曜午後7時15分からJAUC

で開かれております。◆2月26日(月)夕方にはVIP主催により、クリスチャンシンガーソングライターとして広く知られている森繁昇兄によるコンサートがJAUCで開催されました。

■**訂正** 2月の月報上で、イザベラホームにお住まいだった向井ジョージ兄が「ニューハンプシャー州」へ移られたとお知らせしましたが、転居先はNY州オネオンタの間違いでした。訂正します。

■**旧友便り** 佐藤舞子姉はパリでの留学生生活を終わられて日本へ帰国されました。3月から大阪で働かれるとのこと。◆カリフォルニアにお住まいのマザ洋子姉が2月6日、JAUCに来られました。チェルシーの画廊で開かれるグループ展にマザ姉の作品が出品されるとのこと。

■**教会図書** ルドルフ・プロット師の著書『星の王子さま』と聖書』(パロル舎)が図書に入っています。サン・テグジュペリの名作を読み込みながら聖書が教える人間の姿、神様の愛、人生の意味について考えて行くユニークな本です。是非ご覧下さい。

■**JCFNからのお願い** JAUCともつながりがあるクリスチャン団体JCFN(Japanese Christian Fellowship Network)から次のようなお願いを頂きました。イリノイ州にお住まいのクリスチャン学生の石井クリス兄(19歳)が再生不良貧血症という難病にかかされており、骨髄移植が必要な状態です。現在、骨髄バンクに登録されているドナーの中には適合者がいないのですが、日系・白人のハーフの人であれば骨髄のタイプが適合するかも知れないとのこと。ウェブサイトに詳しい情報が出ておりますので、日系人の方々にどうぞ協力を呼びかけて下さい。サイトのアドレスは、www.caringbridge.org/visit/chrisishidaです。

◇祈りのリクエスト◇

次の方々に祈りに覚えて下さい。ロベルト・アセバード(アセバード兄のお父様)、バーバラ・アレキサンダー師、浅井ひさよ、井上和子、伊藤ゆう子、岩佐敏夫、奥田久子、小口愛(アトランタ・ウェストミンスター教会)、神塚アーサー師・リリー姉、神崎ヨネ、桑田ハリー、ゴーマン美智子、野間美奈子、松本二三子、向井ジョージ(ベイサイド在住)、向井ジョージ(オネオンタ在住)、山崎あきら(堀内姉のお兄様)、湯沢キミ諸兄姉

スモール・グループ

スモールグループは教会員の霊的成長のための教会プログラムです(自由参加)。少人数での交わり(フェローシップ)を通して、クリスチャンとして実生活でどう生きるかなどを考え、互いに支えあい高めあうことを目的とします。時刻は変更されることがありますので、各グループの担当者または月報を確認下さい。

- | | | |
|-----------------------|----------|----------|
| SG 1. 女性信徒の学び会(ハインガル) | 第2、4土1時 | 園田姉宅 |
| SG 2. 日本人女性の会 | 第2火11時 | 日下部姉宅 |
| SG 3. 男性信徒の学び会(ハインガル) | 第2、4日9時半 | 教会(日下部兄) |
| SG 4. 日本語での学び会 | 第2日2時 | 教会(春日姉) |
| SG 5. 日本語「葡萄の木」の会 | 第4日2時 | 教会(小林姉) |
| SG 6. 日本語「証しと祈りの会」 | 毎月最終金夜7時 | 寒河江兄宅 |
| SG 7. 英語での学びの会 | 毎月第3日曜 | 教会(吉田夫妻) |